

公益社団法人日本地球惑星科学連合
第 11 回学協会長会議議事録

開催日時 : 平成 26 年 10 月 16 日 (木) 10 時 00 分から 12 時 00 分
開催場所 : 東京大学地震研究所 1 号館 2 階セミナー室
(東京都文京区弥生 1-1-1)

出席者 :

[学協会] 田近英一(日本惑星科学会・議長), 高橋秀幸(日本宇宙生物科学会), 木谷日出男(日本応用地質学会), 井上源喜(日本温泉科学会), 植松光夫(日本海洋学会), 井口正人(日本火山学会), 熊木洋太(日本活断層学会, 東京地学協会), 新野宏(日本気象学会), 小山内康人(日本鉱物科学会), 北村晃寿(日本古生物学会), 小島紀徳(日本砂漠学会), 林謙一郎(資源地質学会), 加藤照之(日本地震学会, 日本測地学会), 山田正(水文・水資源学会), 小鷹長(石油技術協会), 兒玉裕二(日本雪水学会), 今村隆史(日本大気化学会), 小林文明(日本大気電気学会), 小松原純子(日本堆積学会), 斎藤文紀(日本第四紀学会), 柳澤教雄(地学団体研究会), 杉田文(日本地下水学会), 川幡穂高(日本地球化学会), 多田隆治(地球環境史学会), 中村正人(地球電磁気・地球惑星圏学会), 武田一郎(日本地形学連合), 井龍康文(日本地質学会), 海江田秀志(日本地熱学会), 菊地俊夫(日本地理学会), 海東達也(地理教育研究会) 吉田修一郎(土壌物理学学会), 篠原也寸志(日本粘土学会), 横山仁(日本農業気象学会), 渡辺俊樹(物理探査学会), 熊谷道夫(日本陸水学会) 北岡豪一(陸水物理研究会), 久世宏明(日本リモートセンシング学会)

[日本学術会議] 大久保修平

[連合] 津田敏隆, 木村学, (川幡穂高, 中村正人), 古村孝志

議事内容 :

議事に先立ち, ご出席者の自己紹介を行った。

1. 前回議事録確認

前回会議議事録を確認した。

2. 日本地球惑星科学連合活動報告

1) 新体制の紹介(津田会長)

昨年度の代議員およびセクションプレジデント選挙を経て, 新体制となった連合の新役員, セクションボードメンバーの紹介がなされた。ユニオンサイエンスボードのメンバーについては, 日本学術会議第 23 期会員(地球惑星科学委員会)の方々に別途, 正式な就任依頼をする予定である。

2) 2015 年連合大会準備状況(津田会長・事務局)

・プログラム関係スケジュール

9月1日-10月23日, セッション提案受付
1月8日 投稿・参加登録受付開始
2月18日 最終投稿締切日
3月12日-24日 コンビーナによるプログラム編集作業
3月30日 プログラムWEB公開
5月12日 事前参加登録締切日
5月14日 予稿PDF公開
5月24日-28日 2015年連合大会 幕張メッセにて開催

・セッション提案受付状況

10月16日 10:00 現在で 79 セッション (国際セッション 20) である。

昨年は 194 セッションの開催であったので、さらなるご提案をお願いしたい。

・展示企画

学協会エリアへの参加を募集中である。

・学協会長会議発, ユニオンセッション開催の依頼

2014年大会では、学協会長会議発案・連合環境災害対応委員会主催で、ユニオンセッション「連合は環境・災害にどう向き合っていくのか？」を開催したが、引き続き2015年大会においても、同じ趣旨のユニオンセッションを学協会長会議としてご検討いただきたいので、どのような視点で行うのがよいかご提案があればお願いしたい。具体的な内容については、今回もまた連合環境災害対応委員会に検討していただくことにする。賛同する学協会や日本学術会議地球惑星科学委員会などとの共催の形にできればよいのではないかと。

3) 2014年 AGU Fall Meeting における「Geoscience Japan」への出展協力依頼 (川幡理事)

例年、連合としてブースを出展しているが、今年は大きめにエリアを確保し、「Geoscience Japan」(仮称)として、連合の広報だけでなく、日本の地球惑星科学コミュニティ全体の紹介を企画している。各学協会の国際誌、国際学会開催など、発信すべき情報のご提供など、ご協力をお願いしたい。今回は、これまで JpGU ロゴがついている国際誌のみ展示してきたが、これを拡大し、特に、JpGU 参加学協会の英文ジャーナルについての展示も希望があれば積極的に対応する予定である。手続き、スケジュールについては、今月中をメドに JpGU 参加学協会の情報を流す予定である。

【ブース企画案】4つのエリアに分割

「連合の活動紹介」, 「日本の国際ジャーナルの紹介」, 「留学生等受け入れ情報」,
「日本における国際学会開催および進行中のプロジェクト紹介」

[質疑・応答・意見交換]

・ブース企画案について

日本から海外へ行きたい学生、研究者の情報を発信する方法も検討してはどうか。

・2016年の連合大会開催会場について

これまでの経緯も踏まえて質問があった。連合が早い段階で決定して、案内していただけるとありがたい旨、要請があった。

4) サイト「My JpGU」を通じた学協会（国際誌）との連携の提案（川幡理事）

日本地球惑星科学連合では、会員相互に研究内容を紹介しあうサイエンス・コミュニケーションツール「My JpGU」を提供しており、今後このシステムを充実させるべく努力している。メニューのひとつである「関連ジャーナル」の検索において、JpGU 参加学協会のジャーナル（国際誌中心）についても、情報をご提供いただくことで、タイトル、著者名、所属機関などで連合の会員が簡単に検索できることを実現させたいと準備している。今年度末までに、JpGU 参加学協会のジャーナル担当者会議を実施し、どのような方式が効率的に行えるかなどについて議論して、準備する予定なので、是非ご協力をお願いしたい。

5) その他（津田会長、古村理事）

- ・ 2015 年大会では、25 周年記念行事として、AGU, EGU, AOGS, 日本学術会の代表を招いて、「国際連携」をテーマにシンポジウムを行う。
- ・ フェロー対象資格について、「連合会員であること」の事項を削除した。現在受付中である（締切 12 月 31 日）。
- ・ 地球惑星科学振興西田を創設、現在推薦受付中である（締切 12 月 15 日）。
- ・ 内閣府公益認定等委員会事務局より、当連合の社員（代議員）選出に関して以下の 2 点の指摘があり、当連合では WG を作って検討を進めていることが報告された。

【指摘内容】

- ① 当連合の社員（代議員）は、正会員により選出された代議員（選出代議員）と団体会員（加盟学協会）の代表（団体代議員）により構成されるが、正会員によっては、自身が加盟する学協会の代表の選出を通じて二重に連合の意志決定に参画できることになり、公平性に欠けるのではないか。
- ② 選出代議員に比べて、団体代議員の適正を将来にわたって保証する制度設計が不十分ではないか。たとえば、現行ではごく少数からなる新たな団体会員が、他の選出代議員と団体代議員と同等の議決件を持つことになるが、これで良いか。

選出代議員と団体代議員による社員の構成というスタイルは、地球惑星科学コミュニティを代表して公平な意見発出を行うことを目的としたものであり、こうした学術研究団体の連合体としての意義、そして組織運営・社員総会運営が適切に行われていることについては、内閣府公益認定委員会事務局担当者に理解していただいている。ただ、現行の公益社団法人の中で当連合のような（ハイブリッド型の）代議員構成をとっている例は他になく、これが現行の公益認定法に適合しない可能性があるため、検討が必要である。これに対して、①に関しては、当連合の「学協会との共存共栄」の方針に変わりはなく、認定法に則りながら現状の社員体制を継続できるよう方策を検討中である。②については、今後の団体会員の入会基準を厳格化する方向で対応を検討中である。具体的には、日本学術会議が定める日本学術会議協力学術研究団体に準ずることを団体会員の要件とすること、などが考えられる。

[質疑・応答・意見交換]

・内閣府からの指摘に関して

現状の「選出代議員と団体代議員」という社員構成はむしろ新たな形として今後標準となるはずであり、海外からも評価を得ている。新しい試みの成功例として、現体制が維持できるようによい施策を検討してほしい。

3. 日本学術会議の近況報告（日本学術会議地球惑星科学委員会 大久保委員長）

1) 第23期体制について

2014年10月1日より第23期としての活動がスタートし、10月1日の総会にて、会長（大西隆会員留任）および副会長（向井千秋，井野瀬久美恵，花木啓祐各会員）が選出され、10月2日の第3部会で部長，副部長が選出された。10月3日の第1回地球惑星科学委員会においては、大久保修平委員長，藤井良一副委員長，高橋桂子，中村尚各幹事が選出された。近日中に地球惑星科学を専門分野とする会員（8名），連携会員（64名）を中心に60名程度を追加して、第23期地球惑星科学委員会を構築する予定である。

分科会については、企画分科会，地球・惑星圏分科会，地球・人間圏分科会，社会貢献分科会，国際連携分科会に加え，人材育成分科会を新設する予定である。

また，3年に1度行われる会員・連携会員の選考にあたっては，学協会への参考情報のご提供をお願いしたい。

2) 第22期成果について

前回（5月）以降，提言2件，報告1件，記録1件を発出した。

上記のうち，提言「これからの地球惑星科学と社会の関わり方について-東北地方太平洋沖地震・津波・放射性物質拡散問題からの教訓」は，地球惑星科学という学問として，またコミュニティの在り方の総括として，東北地震・津波・原発問題に取り組んだものである。国や国民への提言であると同時に，地球惑星科学コミュニティ，研究者への提言ともなっている。関係学協会会員へ一読を勧めていただきたい。特に，提言3（有事に備え研究者が考えておくべきこと），4（情報発信の仕組みを構築する重要性），5（マスコミ向け），6（情報の受取手である国民向け）が，重要である。連合ニュースレター誌 JGL11月1日号にも掲載予定である。

3) 第23期地球惑星科学委員会の活動方針について

・（課題1）中型～大型研究計画の深化

2014年4月に学術会議が策定した大型研究計画マスタープラン2014では，地球惑星科学分野から13件が採択されたものの，「重点大型研究」には，わずかに1件の採択にとどまった。他分野に比べて，地球惑星科学分野のヒアリング対象件数に対する採択件数の割合の低かった点は，分野全体の問題として受けとめ，対策が必要である。2017年4月のマスタープラン改訂は事実上，2016年9月にほぼ確定することから，地球惑星科学委員会では，今後1年数か月を目途に準備を進める。本年12月27日-28日にフォローアップWSを東大地震研究所にて公開で行う。

・（課題2）第22期地球惑星科学委員会の提言のフォローアップ

社会貢献分科会を中心に検討

- ・(課題 3) 地球惑星科学における, 教育・人材育成
人材育成分科会(仮称, 新設)を中心に検討

[質疑・応答・意見交換]

- ・「重点大型研究」に選ばれるメリットについて

大型研究として, 文部科学省学術機関課が所掌する予算の措置を受けるには, 科学技術・学術審議会の下にある研究環境基盤部会が審議立案するロードマップに採択される必要がある。これまでは, 学術会議の「重点大型研究」に採択されたものが, ロードマップのヒアリング対象になってきた。他の省庁については, メリットは明確ではないが, 日本学術会議にエンドースされていることは, よい印象である。

- ・学術会議から発出される提言, 報告, 記録の違いについて

「提言」は, 学術会議の意思の表出, 「報告」は他からの依頼に応じる形での意思表出, 「記録」は, 学術会議の意思表出にはいたらず, 議論した内容をまとめたものである。今後の審議の参考として活用が期待される。

- ・地球惑星科学分野がまとまって, プレゼンスを高めることは重要である。

4. その他(アクションアイテムなど)

- ・2015年連合大会での学協会長会議としてのセッション提案検討

2014年大会のユニオンセッション「連合は環境・災害にどう向き合っていくのか?」を継続する方向で, 具体的な提案があれば受け付ける。具体的な内容は, 今回もまた環境災害対応委員会に検討をお願いする。

・2016年, および以降の連合大会開催会場については別途案内する。特に2016年大会については, 早い段階で案内する。

・2014年 AGU Fall Meeting 連合ブースにおける参加ご協力について, 後日連合事務局よりご案内をするので, 検討する。

- ・次回会議開催の案内

開催日時 : 平成27年5月27日(水) 13時00分から14時00分

開催場所 : 幕張メッセ国際会議場302号室(千葉市美浜区中瀬2-1)

以上